

臨床研究のための

Stata マニュアル 第 2 版

正誤表

認定 NPO 法人 健康医療評価研究機構 (iHope International)

ver. 2 (2012 年 5 月 16 日 作成)

臨床研究のための Stata マニュアル第 2 版 (2011 年 3 月発行) につきまして、本文中に誤記・誤植等がございました。深くお詫び申し上げます。

読者の皆様にはぜひ本表を併せてお読みいただき、Stata マニュアルをご活用くださいますようお願いいたします。

第4章 グラフの作成

▶ p.42
(4. 箱ひげ
図 7 行目)

正誤

○ (図にある「外境界点」の意味づけに関する説明がないため、「……表示されます (図 4-7)。」の後に、以下を追加) : 箱ひげ図の描き方には様々なルールがあり、「外境界点」(箱の上限・下限から四分偏差の3倍を超えるはずれ値をもつ値)はマークを変える、例えば「*」などにすることがありますが、Stata ではマークは変わりません。

第11章 メタ分析

▶ p.132
(メタ分析の
コマンド (2)
1 行目~5 行
目)

正誤

- × meta コマンドは、ivnerse-variance ウェイトを用いて、……metareg などのコマンドも全て同様の変数が必要となります。
- 各々の研究のエフェクトサイズの推定値と標準誤差の変数を利用して、metan コマンドで解析を行う事ができます。metacum、metainf、metabias、metareg などのコマンドも全て同様の変数が必要となります。

▶ p.132
(オッズ比の
対数の計算
式)

正誤

- × $\text{gen logor}=(\text{event1}/\text{noevent1})/(\text{event0}/\text{noevent0})$
- $\text{gen logor}=\ln((\text{event1}/\text{noevent1})/(\text{event0}/\text{noevent0}))$

▶ p.133
(結果図)

正誤

○

| Study | ES | [95% Conf. Interval] | | % Weight |
|----------------------|-------|----------------------|-------|----------|
| Unstable angina | 0.566 | 0.471 | 0.681 | 13.94 |
| Coronary artery bypa | 1.029 | 0.814 | 1.300 | 8.71 |
| Coronary angioplasty | 0.478 | 0.330 | 0.692 | 3.46 |
| Stable angina/corona | 0.671 | 0.535 | 0.841 | 9.31 |
| Heart failure | 0.562 | 0.157 | 2.019 | 0.29 |
| Atrial fibrillation | 0.798 | 0.653 | 0.974 | 11.93 |
| Cardiac valve diseas | 1.000 | 0.694 | 1.442 | 3.56 |
| Cardiac valve surger | 0.542 | 0.389 | 0.755 | 4.33 |
| Intermittent claudic | 0.799 | 0.659 | 0.969 | 12.8 |
| Peripheral grafting | 0.817 | 0.585 | 1.140 | 4.28 |
| Peripheral angioplas | 0.701 | 0.331 | 1.485 | 0.85 |
| Haemodialysis | 0.571 | 0.381 | 0.857 | 2.90 |
| Diabetes | 0.932 | 0.803 | 1.081 | 21.51 |
| Carotid disease | 0.812 | 0.507 | 1.301 | 2.15 |
| I-V pooled ES | 0.763 | 0.712 | 0.817 | 100 |

Heterogeneity chi-squared = 39.59 (d.f. = 13) p = 0.000
I-squared (variation in ES attributable to heterogeneity) = 67.2%

Test of ES=1 : z= 7.70 p = 0.000

▶ p.134
(図 11-3)

正誤

○ 図 11-3 を削除

▶ p.134
(1 行目～4
行目)

正誤

- × meta は metan と異なり，……メタ分析を行うのに有用です。
- Weight を見ると、小さな研究のウェイトが小さくなっていることがわかります。効果の推定値と標準誤差のみを必要とするため、2 × 2 表のデータが得られない場合にメタ分析を行うのに有用です。

▶ p.136
(1 行目)

正誤

- × 上記の補正後，meta を用いてメタ分析を行います。
- 上記の補正後，metan を用いてメタ分析を行います。